

# 更別村コミュニティ・スクール

「地域とともにある学校づくり」で、  
学校が元気に！地域が元気に！

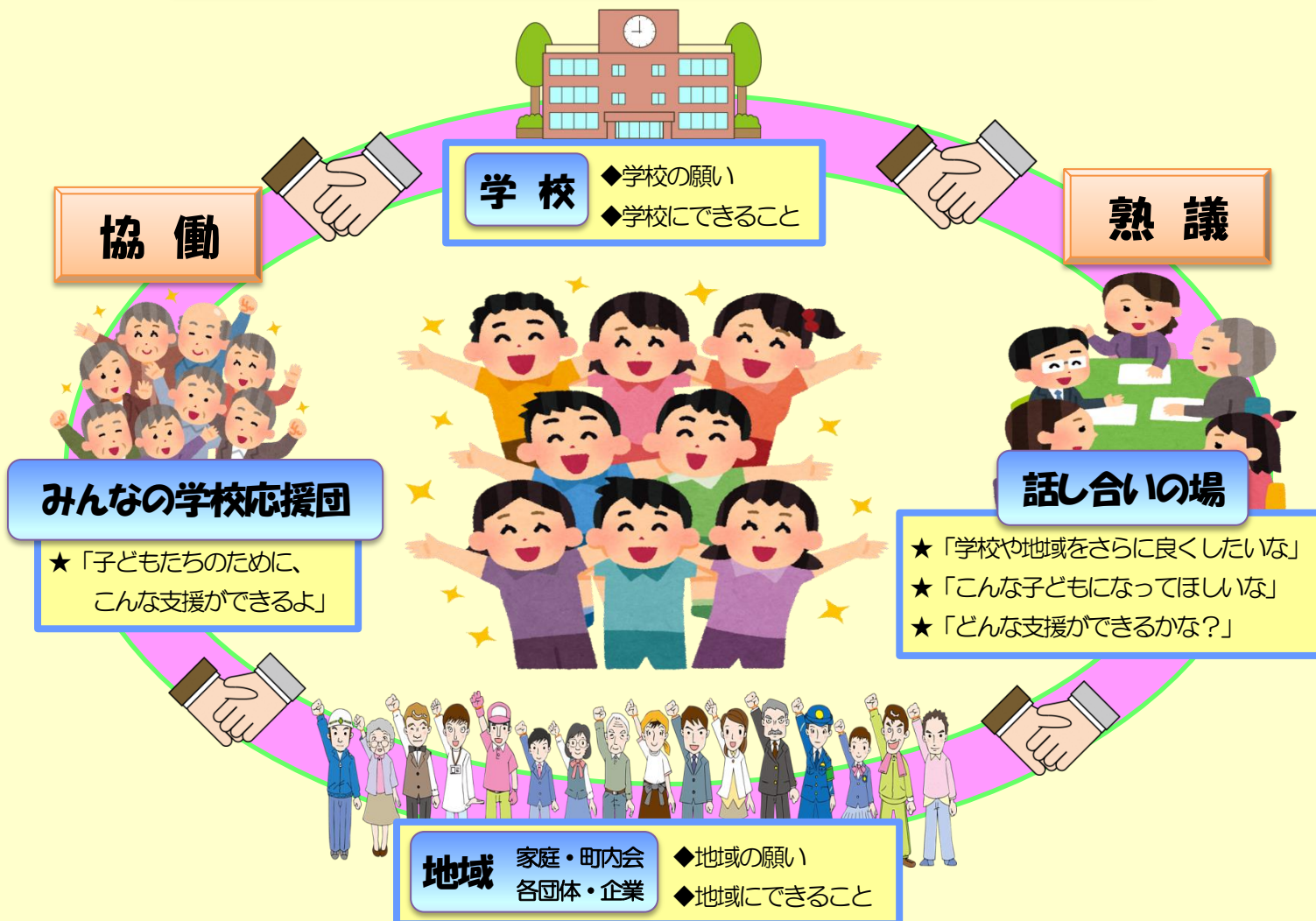
## 「地域とともにある学校づくり」とは？

子どもたちは、多様な人々と接しながらさまざまな体験を通して、「生きる力」を育みます。  
地域の大人たちが、子どもたちを真ん中にして、みんなが寄り集まって自分にできることや得意なこと子どもたちと接し、先生方といっしょに子どもたちの成長を温かい目で見守るのが、「地域とともにある学校づくり」です。  
子どもたちは、地域の大人たちから生きる力（知恵）をもらい、地域の大人たちは、子どもたちから元気やパワーをもらいます。

「地域とともにある学校づくり」で子ども学校も、地域も元気いっぱい！  
それが、「更別村コミュニティ・スクール」です。

平成29年4月より「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会は所管する学校に「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」を置くように努めなければならない。とされました。  
これを受け、十勝管内では平成31年度までに、ほとんどの町村において「コミュニティ・スクール」が導入されます。

## 「更別村コミュニティ・スクール」 ～子どもを真ん中にした地域ぐるみの学校支援～



## コミュニティ・スクールの取組で広がる魅力

### 子どもにとっての魅力

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

### 教職員にとっての魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域の人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

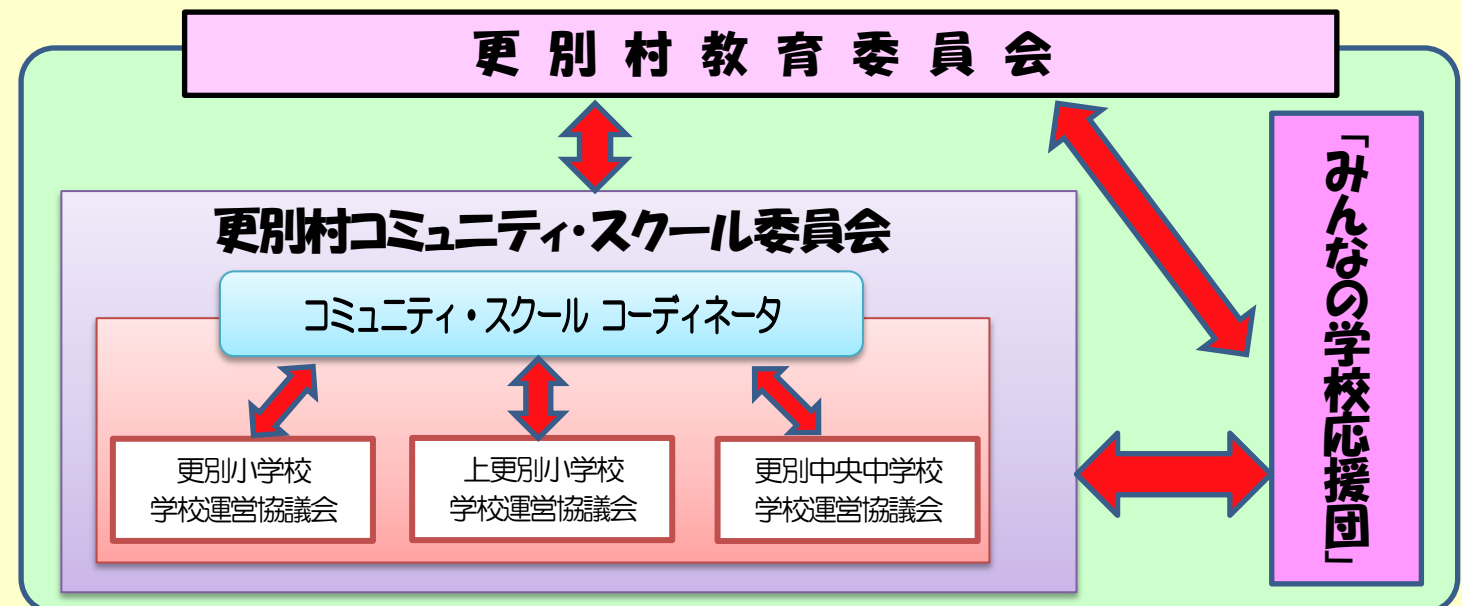
### 保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

### 地域の人々にとっての魅力

- 自分の経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながります。
- 学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等が構築できます。

## 更別村コミュニティ・スクール構成図



### 「学校運営協議会」とは・・・

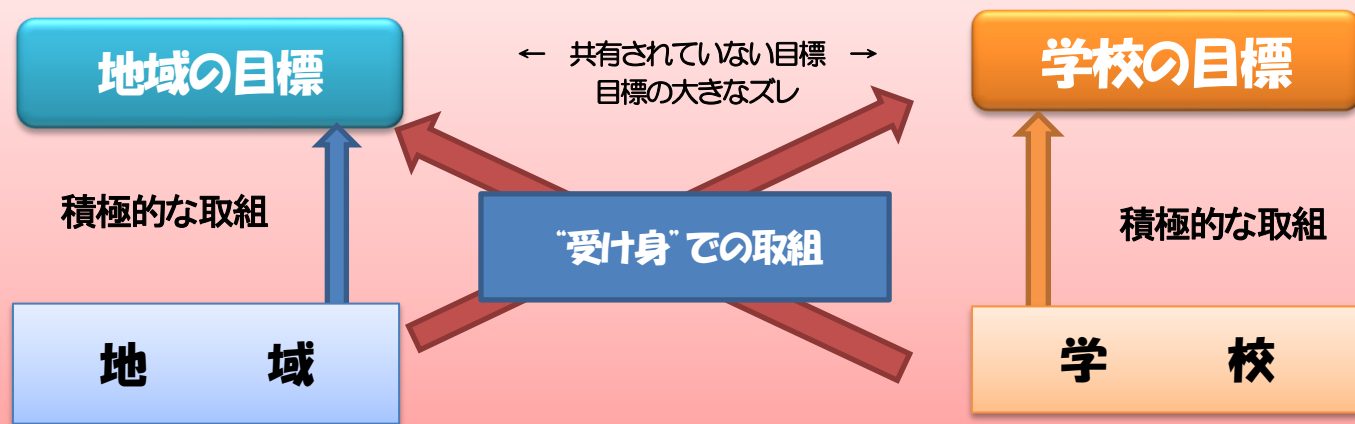
コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校を指します。学校運営協議会の委員には、保護者や地域の皆さんの代表の方たちの協力をいただきます。学校運営協議会は、学校の良きパートナーになるものです。

### 「みんなの学校応援団」とは・・・

各学校では、これまで多くの方々の支援をいただいています。これからは、今まで学校をサポートしていただいた多くの方々に「みんなの学校応援団」にご登録いただき、これまで以上に学校との連絡や調整をやすくしていきます。

# 今までも学校と地域は協力してきたけど、何が変わるの？

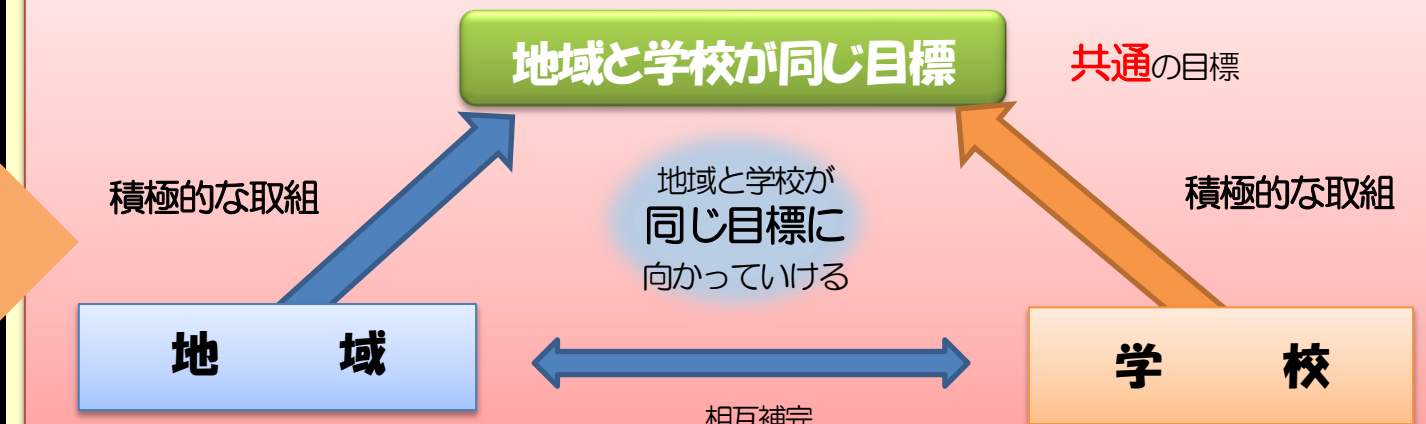
## コミュニティ・スクールを導入するまでは・・・



地域と学校の目標に大きなズレがあったり、その目標が共有されていない場合、お互いに「頼まれたから、やる」や「この前、手伝ってもらったから、やる」といった受け身の姿勢になってしまうことがあります。

→ これでは、地域にとっても学校にとっても、直接的に自分たちのメリットとならないため、“**負担感**”や“**やらされ感**”があり、“**不満**”がたまる可能性があります。

## コミュニティ・スクールを導入すると・・・



共通の目標が設定されると、お互いに前向きな姿勢で取り組むことができ、子どもたちへの教育効果も大いに期待できます。

→ “**地域が学校と一体**”となって、“**役割分担**”をしながら、それぞれが“**主体的**”に取り組むので、お互いに“**達成感**”を味わうことができます。

コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等にも教育の当事者となることで、責任感をもち、積極的に子どもへの教育に携わることができるようになります。

- 近所で元気がない様子の子もがいても、なかなか声をかけることができない。
- 近くの公園で子どもが騒いだり、ゴミを散らかしたままにしたりするので、学校に苦情の電話をかける。
- 小中一貫教育の実施方法やメリット・効果等について、保護者や地域住民に十分に伝わらない。

- 地域住民等が子どもたちに積極的に声をかけたり、自ら指導したりする場面が増加します。
- 学校任せにするのではなく、地域住民等が学校と共に対処策を考えます。
- 地域ぐるみで考え、実践することで、地域の声を生かした9年間の小中一貫教育が実現します。

コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等が学校運営や教育活動へ参画することで、自己有用感や生きがいにつながり、子どもたちの学びや体験が充実します。

- 自分の経験を生かして、学校や子どもたちをサポートしたいが、迷惑にならないか。
- 地域の人々の思いや考えに触れる機会がなかなか得られない。
- 地域人材を活用した学習がどれもイベント的な取組になっている。

- 多くの大人の専門性や地域の力を生かした学校運営や教育活動が実現します。
- 学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころになります。
- 地域住民等の考えや地域の特性を生かすことで、学校での学びがより豊かで広がりをもちます。

コミュニティ・スクールでは、保護者・地域住民等と学校が、“顔が見える関係”となり、保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現します。

- 価値観の多様化により、学校の運営方針や諸課題について厳しい意見が多い。
- 保護者や地域住民から、様々な要望があり、その対応に追われてしまう。

- 学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域が学校の応援団となります。
- 学校・家庭・地域の適切な役割分担により、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながります。

他にも、こんな効果が期待できます

- 大規模災害時など、緊急な対応が必要な場面においても、学校と地域が一体となり、迅速かつ組織的な対応ができます。